✝

2024年

5月第1･2週の主日礼拝説教要約

･5月　5日　使徒言行録　1：3－12．

『　四十日の後に　』

･5月12日　使徒言行録　1：21－26．

『　欠員の補充　』

衣笠病院教会　牧師　宮原晃一郎

≪　四十日の後に　≫

十字架の前夜、イエスに尋問したポンティオピラトが、重ねて問うたことがあります、「お前はユダヤの王なのか」と。

死と復活から四十日が過ぎた頃、イエスは弟子たちの前に顕れて、「エルサレムから離れるな」という指示を出しました。そのあと、今度は弟子たちの中からイエスに問いかける者がいます、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と。指示通りにエルサレムで待機すれば、弟子たちが待ちに待った“この時”がおとずれようとしています。新国王イエスの下で、いよいよ彼らの活躍の時代が始まろうとしているのです。復活のイエスこそが「ユダヤの王」に相応しい、という思いが弟子たちの中にさえ、くすぶっていたのです。

しかし、イエスは答えます。

父（なる神）が．ご自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。ただ、あなたがたの上に聖霊が降ると、あなた方は力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤとサマリア全土、さらに地の果てまで、私の証人となる。（使徒言行録 1:7-8 ）

ここに、弟子たちが寄せていた、ささやかな期待は全て打ち砕かれてしまいます。

必要なことを語り終えたイエスはそのまま、「彼らの見ている前で天に上げられ、雲に覆われて．見えなくなった（同 1:9 ）」のでした。弟子たちは、力あるイエスの業と存在を、ことあるごとに衝撃をもって受けとめていました。けれども、神様の「お定めになった時や時期」、はたまた御計画そのものを、弟子たちは知ることを許されません。その時、彼らはただ、地上を後にした主を目に焼き付けて、「天を見つめて（同 1:10 ）」いる以外になす術がなかったのです。「私（イエス・キリスト）の証人（同 1:8 ）」となれとは、どういう意味なのか。彼らには理解ができません。何をどう証明したらよいのか、さっぱりわかりません。それも、彼らの「知るところではない」からでした。

これが克服される時が来るのだとすれば、その時こそ「聖霊が降り、あなたがたが力を受ける」時なのかもしれません。彼らにはただ“待つ”ことだけが求められたのでした。

≪　欠員の補充　≫

二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒たちに加えられた。　（使徒言行録１：２６）

新約聖書の中で、“くじ”が出て来るのは５箇所で、そのうちの３箇所は、十字架のイエスの服装の分割にくじが用いられたこと（マタイ、ルカ、ヨハネ福音書）。１か所は、ルカ福音書の１章で、ザカリアがくじに当たって神殿の聖所に入って香をたくことになったこと。さらに上記の使徒言行録で、使徒たちによって人選に用いられたことでした。
その殆どが、人の間で混乱を避けるための、なけなしの知恵として籤引きが実施されています。神の介入が不確実である時に。ただ、今日の最後の籤引きは、その場の人々による以下の祈りをもって実施されました。

全ての人の心をご存知である主よ、この二人のうち、（あなたが）どちらを選ばれたかをお示しください。ユダが（裏切って）自分の行くべき所に行くために離れてしまった、この勤めと使徒職を継がせるために。　（同１：２４－２５）

籤引きは、使徒の欠員（１名）の補充として実施されます。「この二人」とは、ヨセフとマティアです。候補者が絞られた理由としては、

主イエスが私たちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼の時から始まって、私たちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者のうちの誰か一人が、私たちに加わって、主の復活の証人になるべきです。　（同１：２１－２２）

この二人が、使徒たちの“同行者”であったことを、読者はここで初めて知らされます。彼らはこの二人に絞り、神キリストの意中の人を見出します。くじに働く“神の見えざる手”を信じて。エマオへの途上で復活のイエスと語り合ったクレオパは、残念ながら“候補者”には残らなかったようです。

今日の市場経済や民主主義も、まさにその“手”に期待するところが大きいと言えます。だからこそ“候補の選出”には、慎重の上にも慎重を期するべきなのです。